

## ルウィン先生退職記念号に寄せて

学 長 幸 田 亮 一

マング・マング・ルウィン先生は、1969年にラングーン経済大学を卒業後、同大学大学院修士課程を修了された後、日本に留学され、1984年に名古屋大学大学院経済学研究科博士課程を修了されました。先生の職歴を振り返ると、1971年にラングーン経済大学講師となられたのが最初です。その後、名古屋大学大学院を修了された1984年に同大学経済学部総合経済研究所客員研究員に就任され、1990年より同研究所助教授に昇格され、さらに翌1991年に名古屋大学大学院国際開発研究科助教授に就任されています。そして、1993年4月に熊本商科大学経済学部教授として来熊され、それから2018年3月のご退職まで、25年の長きにわたり熊本学園大学の発展にご貢献下さいました。

先生のご専門は開発経済論で、まず名古屋大学時代に、同経済学研究科の『経済科学』に、経済開発に伴う人口移動についての論文を英語や日本語で発表されています。これらの研究は、“Internal migration and urbanization in Burma and Japan : towards a new strategy for dualistic structure of Asian urbanization : an empirical study of Japan”（ビルマと日本における人口移動と都市化：アジアの都市化にみられる二重構造解消の戦略を求めて）というタイトルの博士論文にまとめられ、名古屋大学より1984年に経済学博士号を授与されました。

本学に赴任されてからも、精力的に研究を続けられ、本学産業経営研究所の『産業経営研究』ならびに経済学部の『経済論集』に論文や調査研究を多数発表されてきました。さらに、先生は、流暢な英語力を活かしてヤンゴン大学やアンコール大学での国際学会において、さまざまな観点から発展途上国の開発問題について発表されています。

先生の活動を振り返って感心させられるのは、母国ミャンマーの発展を常に気にかけられて、ミャンマーと日本の間の架け橋の役割を果たされてきたことです。さらに、ルウィン先生の功績として特筆すべきは、若手の研究者養成に大きな力を投入されたことです。経済学部のルウィンゼミから本学大学院経済学研究科へ進学して研究者になった人たちが何人もおり、さらに研究者以外でも多くのルウィンゼミ出身者が各地で活躍しています。

このような研究・教育面での実績に加え、ルウィン先生は、本学において重要な役職を歴任されています。まず、先生の国際性を活かし、1998年から翌年にかけて国際交流委員長、2002年から2年間国際経済学科長を務められました。さらに2008年から2011年にかけて大

学院経済学研究科長として研究科の発展に尽力されました。さらに 2013 年 4 月から 2016 年 7 月まで学校法人熊本学園の理事として、豊富な国際経験をもとに広い視野から学園運営に貢献されました。

1993 年より長年にわたって熊本学園大学の発展にご貢献頂いたルウィン先生は 2018 年 3 月をもってご退職となり、その後はライフワークである、ミャンマーでの高等教育の振興に力を注がれています。

これから先生の残された財産を大切に活かして、地域においてさらに輝く大学に発展させていくことが後進としての私たちの役目です。

マング・マング・ルウィン 先生の今後のご健勝とご活躍を心より願ってご挨拶に代えさせていただきます。